

令和3年度

平和学習活動 事業報告書



「非核平和都市宣言」 (平成 18 年 12 月 25 日)

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

目次

1. 平和学習活動実施概要 2 頁
2. 平和学習活動の様子 5 頁
3. アンケート紹介 6 頁



1. 平和学習活動実施概要

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業および平和学習活動実施の一環として、次代を担う中学生を国際的な視点で命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒に育成することとします。

(2) 経緯

例年、広島市で開催される平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）へ生徒を派遣していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、派遣は行わないこととしました。それに代えて、広島平和記念資料館より借用した当時の貴重な資料を収めたDVDや、令和元年度平和大使の報告会の記録を観賞し、平和学習としました。

(3) 活動内容

①広島平和記念資料館より借用の資料DVD「ヒロシマ・母たちの祈り」を視聴
視聴実施日9月10日（金）～10月1日（金）／対象：中学3年生

広島平和記念資料館より借用した当時の記録を視聴し、話し合いなどの理解を深める時間を設け、その後、自由記述を含むアンケートを実施しました。戦争のむごさや平和の尊さを伝える映像資料を用いることで、原爆の被害や凄惨さを知り、命の尊さや平和について考え、行動ができる生徒を育成しました。

【参考】

○視聴後アンケート実施日および視聴対象人数 ※人数は実視聴人数

- ・燕中学校：10月1日（金）／177名
- ・小池中学校：9月27日（月）～9月28日（火）／53名
- ・燕北中学校：10月7日（火）／49名
- ・吉田中学校：9月15日（水）／178名
- ・分水中学校：9月30日（木）／97名

②千羽鶴の作成

作成日6月中旬～7月30日（金）／対象：中学全学年

平和への願いを込めて千羽鶴を作成しました。広島市では、例年通り、千羽鶴を受け入れることから千羽鶴の作成を各学校へ依頼し、市が取りまとめて広島市へ輸送しました。現地へ赴くことはできませんが、生徒一人一人が折り鶴を作成し、その折り鶴を奉納することを通して、平和への思いを深めることを目的としました。

③令和元年度平和大使の報告会の記録および「原爆の絵」の貸出

貸出期間 9月～年度末／対象：希望校の全学年

令和元年度に広島平和記念式典に参加した代表生徒の派遣事業報告会での様子を収録したDVDを視聴および、「原爆の絵」パネルを鑑賞し、その後、自由記述を含むアンケートを実施しました。

平和大使が、平和への願いを現地でどのように感じ、継承することの大切さを学んだのか平和大使の軌跡を辿ることで共有し、命の尊厳や平和の尊さについて考え、行動できる生徒を育成しました。実施単位は制限せず、学年ごと、クラスごと、クラブごと等自由としました。

【参考】

○実施校および視聴対象単位／人数 ※人数は実視聴人数

- ・燕中学校：クラス単位／26名
- ・小池中学校：クラブ単位／28名

○資料DVD「ヒロシマ・母たちの祈り」とは

原爆が投下されてからの被爆者の苦悩の生活と、その中にありながら、核兵器廃絶と世界恒久平和を求め続けてきた広島の歩みを、子を持つ母の視点から描いた平和の尊さと被爆体験の継承の大切さを訴えている記録映画です。広島市の有識者によって構成された「原爆映画製作委員会」の企画・監修により、2年をかけて製作されました。日本語、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、ハンガール語、中国語に翻訳され、世界中の平和を願う人々に視聴されています。

【概要】

戦前の広島は、活気の溢れる町でした。1945年8月6日の朝、警戒警報は解除され、子どもたちは学校や家屋の疎開作業に出かけ、午前8時15分に原爆に遭いました。

当時の貴重な映像や資料により、原爆投下後の実態、そしてあの日から現在に至るまでの広島の様子が記録されています。

上空580mで摂氏数百万度の巨大な火の玉となった原爆は、3,000度の熱線で大地を焼き、音速を超える爆風と致死量の放射線で人々を貫き、全てを奪いました。

原爆によって悲惨なケガを負い、帰る家を失くした人たち、そして親を亡くした多くの原爆孤児が生まれました。

戦後2年目の1947年8月6日に初めて平和祭（後の広島平和記念式典）が行われ、7度目の8月6日には、「ひろしまの誓い（碑石）」が設置されました。碑石には【ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ こどもをかえせ】と刻まれ、戦争と核兵器の使用の過ちを2度と繰り返さないことを世界へ訴えました。

そして、10年目の広島平和記念祭には、水爆実験により被爆した乗組員の家族

や、核・原水爆に反対する世界の人々が集まり、国境や立場を超えて広島と長崎に平和の証を求めました。

戦後20年目には、復興が目覚ましい中でも、年ごとに確認された遺骨と巡り会い、歳月を超えた悲しみを迎えた人や、胎内被爆により水頭症を患いながら生まれ20歳を迎えた人など、なお原爆と戦い続けている多くの人がありました。

あの日から25年目、悲惨なケガを乗り越え生き延びた人々は、記録映像のインタビューの中で「平和を考えると、最初に被爆者が叫ばなければならないのではないかと思います」と話しました。

そして、36年目の1981年に、ローマ法王のヨハネ・パウロ2世は慰霊碑の前に跪き「ヒロシマを考えることは核戦争を拒否することです」と世界に訴え、さらに国内外の地方自治体の市長で構成された、世界平和連帯都市市長会議は平和のため、力を合わせることを誓い合いました。

次の世代の心に受け継がれることで、広島の死者たちは蘇ります。あの日亡くなった人たち、あの日から生き続けた人たちの心を繋ぎ、広島は核のない世界を求め続けます。それこそが広島の永遠の祈りです。

○令和元年度平和大使の報告会の記録とは

令和元年9月1日（日）燕市役所つばめホールにて開催した、広島平和記念式典派遣事業に参加した生徒の事業報告会の様子を記録したものです。

代表生徒は平和大使として、8月5日～7日の3日間の行程で広島市を訪問し、広島平和記念式典への参列や被爆体験講話を受講しました。また、各中学校で作成した千羽鶴を原爆の子の像へ奉納、元安川でのとうろう流しなどの、様々な経験を通じて命の大切さや平和の尊さを学びました。

事業報告会では、平和大使が現地で、見て、聴いて、感じたことを学びの報告として発表し、来場者へ原爆の凄惨さや平和の尊さを伝えました。

○「原爆の絵」とは

広島市立基町高等学校創造表現コースの生徒が被爆者との対話を元に描いた絵画のことです。

被爆者の記憶に残る当時の光景を若者が絵に描き、被爆の実相を絵画として後世に残すこと、制作を通して高校生が被爆者の思いを受け継ぐことを目的とし制作されています。当時の状況を克明に描き出された「原爆の絵」は、平和記念資料館に寄贈され、被爆体験講話の際に原爆の惨状をより深く理解してもらうために使用されています。

今回は、データ化された20枚の「原爆の絵」をパネルにし、各学校に貸出しました。

2. 平和学習活動の様子



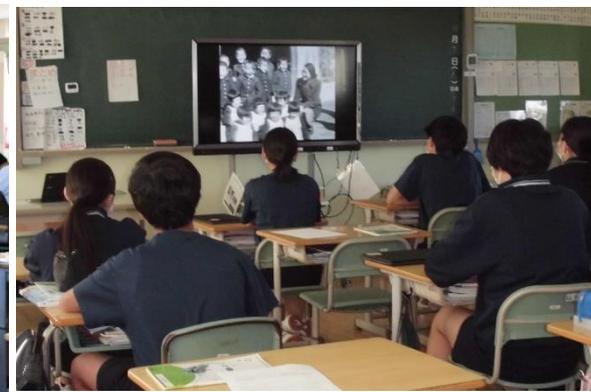
▲広島市へ輸送した千羽鶴、原爆の子の像に奉納された

▲千羽鶴作成の様子①



▲千羽鶴作成の様子②

▲資料DVD視聴の様子①



▲資料DVD視聴の様子②

▲資料DVD視聴の様子③



▲視聴後のアンケートの記入

▲隣の人と感想等の話し合い

3. アンケート紹介

『ヒロシマ・母たちの祈り』DVDを視聴して

市内5中学校の3年生を対象に、『ヒロシマ・母たちの祈り』のDVD視聴後に感想等の自由記述を含む平和学習活動についてアンケートを行いました。生徒たちの回答を紹介します。

■一番印象に残っている言葉は？

- ・戦争を忘れてはいけない。
- ・原爆は許してはならない。
- ・手を合わせるのは被爆した人たちへの思い、でもあり平和の祈りでもある。
- ・原爆に時効はありません。
- ・被爆者の人が生きつづけることで原爆はまだ終わっていないという言葉。
- ・すべてを奪っていった。
- ・傷を負っていなくても生きる気力を失った兄弟。
- ・「街が死んだ」という言葉。
- ・白血病によって苦しめ続けられた。
- ・もう二度と原水爆事故はあってはなりません。
- ・核のない世界を求め続ける。
- ・子供をなくしたお母さんたちの思い。平和になってほしい。
- ・原爆、戦争。
- ・亡くなった人の命は今も誰かの心のなかで生きつづけています。
- ・戦争の恐ろしさを今後の世代や、世界に広めること。
- ・被爆症、爆風、放射線、原子爆弾。
- ・広島を考えることは戦争を反対すること。
- ・これは本当に私達の広島なのか。
- ・被爆者。
- ・子供の何かを訴える目。
- ・「家もなく街もなく子どもたちの声も聞こえず街は死んだのです。」「地獄という以外に言葉はありません。」40度の熱の男の子が外科に運び込まれて、血を確かめようと耳にメスを入れて検査したら、「赤血球と白血球がまったくない」その3日後、男の子は帰らぬ人となった。
- ・父をかえせ、母をかえせ、年寄をかえせ、子供をかえせ。
- ・残されたのは母親だけでした。
- ・地獄という言葉以外ない。
- ・次の世代に思いは受け継がれていく。
- ・ヒロシマを考えることは、平和への第一歩だということ。
- ・原爆を昔話としてもいいのでしょうか。
- ・原爆、戦争を忘れていけない。
- ・水爆実験を二度と行わないと誓った言葉。
- ・受け継ぐ。
- ・あの日を忘れてはいけない。
- ・あの日広島で被爆したあの日から生き続けている人たちのことを忘れてはいけない。
- ・平和。

- ・ 2ヶ月で約21万人の人が治療を受けていた。
- ・ 緑もなく子どもたちの声もなく街は死んだ。
- ・ ベッドがないのでケガをしている人は床に寝ている。
- ・ 1945年8時15分。
- ・ 音速より早い爆風。
- ・ 原水爆禁止世界大会。
- ・ 母が子供たちの帰りを待っていること。
- ・ 怪我をした所にうじむしが湧いた。
- ・ 母たちの悲しみが平和への祈りに変わる。
- ・ 少女が遺骨になったお父さんを暑いからと言ってうちわであおいでいる。
- ・ 世界に戦争と核兵器をやめようと伝える働き。
- ・ 多くの人々が原爆によって苦しめられたという、言葉。
- ・ 千羽鶴を折れば白血病が治ると信じて毎日鶴を折り続けました。
- ・ 放射線。
- ・ 後遺症。
- ・ 自分の子供をなくした母親は戦争の痛みを忘れることができません。
- ・ 緑が戻らないと言われた広島に緑が戻り始めた。
- ・ 熱いアスファルトを歩き続けた足の指は今にも崩れそうでした。
- ・ 家族が欠けていた。
- ・ これで原爆が終わりではなかった。
- ・ 「白血病の恐ろしい時代に入った」という医師の方の言葉。
- ・ 川に人々の遺体があちらこちらに浮いていた。
- ・ 家に帰りたい。
- ・ ほとんど全部。
- ・ 当時の映像が流れている場面で「忘れられません」と言っているナレーションが印象強く、どれだけ悲惨なものであったかが分かりました。
- ・ 広島が大きな墓場となった。
- ・ 母の祈り。
- ・ 左目を失った女性の言葉。
- ・ 待っているだけではだめなのです。
- ・ 小さな女の子が呼び続けた『お母さん』という言葉。
- ・ 一瞬の音速の光が10万人以上の命を奪った。
- ・ 大地に消えた。
- ・ 死の灰。
- ・ 原爆ドーム。
- ・ これは本当に私達の広島なのか。
- ・ 最初の母が息子のために祈っているところの言葉。
- ・ みんなで助け合った。

■一番印象に残っている場面は？

- ・ どもたちがあそんでいるところ。
- ・ 4、5歳位の子が泣きながら母を呼んでいる場面。
- ・ 焼けて影になっていた。
- ・ 被爆者が病院で治療を受けている場面。
- ・ 被爆したことで生きる意思を失った人の場面。
- ・ 原子爆弾が落とされても諦めずに平和を祈り続けた人々がいるという場面。
- ・ 暑いからと父の遺骨に風を送っている場面。
- ・ 目を失った人。
- ・ 原爆でうけた怪我を見たとき。
- ・ 原爆記念碑の前で合唱する人たちの場面。
- ・ 母が毎朝息子のもとに会いに行く場面。
- ・ 原爆を受けた人が横たわっている場面。
- ・ 頭蓋骨が山になっている場面。
- ・ 多くの方々が、亡くなった人たちに手を合わせていた場面。
- ・ 広島が焼け野原になったところ。
- ・ 苦しくても怪我などに立ち向かっているところ。
- ・ 原爆の記念碑に花を添えている場面。
- ・ 子供がお医者さんに治療してもらっているときに「お母さん」と言っていたところ。
- ・ 怪我一つないどもが生きる心がなくなっていた場面。
- ・ 帰りを待つ家族が泣いていたこと。
- ・ 髪の毛が抜けてしまったどもたち。
- ・ 原爆の中にも、水素原爆もあることに驚いた。たくさんの人々が犠牲になっていたし、原爆に当たっただけでも後遺症みたいに残るし、たった一つのことだけで、何十年も苦勞して今の広島があることがわかった。
- ・ きのこと雲が上がっているシーン。
- ・ 外国から広島に来た人たちが手を合わせている場面。
- ・ おばあさんが痛い足を引きずってお墓にお参りに行っていたところ。
- ・ 原爆で髪が抜けていたとこで、原爆だけでこんなことになるのに衝撃を受けた。
- ・ 亡くなった人たちに音楽を届けていた。戦争が起きたあとのみんなの行動。
- ・ 原子爆弾の放射線によって肌を火傷して寝たきりになっても、家族や医者にご飯を作ってあげたり治療をしていたところ。
- ・ あたり一面建物がなくなっていたところ。
- ・ 21万人もの被爆被害者などがいた病院。
- ・ 息子をなくした母親たちが涙を流しながらお祈りをしている場面。
- ・ 中学生たちが花束を置いたり、歌いながら泣いている場面が印象的でした。

- ・治療しているところ。
- ・劣悪な環境で残った数少ない医師が大勢の被爆者の治療をしているところや、小さな子供にまで過大な身体への被害が及んでいる様子。母親がなくなった子供を思って泣いている様子はとても胸が痛くなりました。
- ・小さい子供が赤ん坊をおんぶしていたところ。
- ・小頭症の子供の話。
- ・原子爆弾が爆破して、爆発に巻き込まれた人たちが水を欲しがって長い列を作ってさまよっていたところ。もう亡くなっているであろう赤子を背中におぶっている母親などの絵。
- ・平和記念公園でローマ教皇が演説をしている場面。
- ・焼け焦げた人たちが映っている場面。
- ・僕と同じ少年の人達がまるで助けを求めているかのようにこっちを何かを訴えかけているような目でこちらを見つめたこと。
- ・原爆が落とされる場面。
- ・少女が折り鶴を折っている場面
- ・原水爆禁止世界大会が行われたのにも関わらず原水爆が無くならないこと。
- ・第五福竜丸が水爆で被爆し、被爆者が出てきた場面。
- ・原水爆禁止世界大会。
- ・死んだ子供を母がおんぶ紐でおんぶしている場面。
- ・自分より小さな男の子が妹をおんぶしていたところ。
- ・我が子を探す母親。
- ・原子爆弾の落とされた瞬間。
- ・千羽鶴を折るところ。
- ・平和記念館ができた時。
- ・原爆の被害がだんだんよくなり街が復興してきているときに子供や大人に白血病の症状がでてきて苦しめ多くの人々が亡くなったというところが安心からまた不安に変え多くに悲しみを与えたところが一番印象に残っている。
- ・日本人として初めて世界に向けてスピーチをした場面。
- ・ケロイドの場面。
- ・1000羽鶴をおれば治ると信じたて折り続けた子の場面。
- ・女の子が検査結果と千羽の鶴をのこして亡くなった場面。
- ・被爆前と被爆後の変わり果てた様子や人々の体に起こった変化を見た時核兵器の恐ろしさを感じさせられました。
- ・核兵器廃絶を訴える場面。
- ・橋の足跡。
- ・水爆の光が画面一面に広がっている場面。

■ 平和学習を通じて学んだことで、今後あなたの身の周りで取り組んでみようとすることは？

- ・ 毎日平和を願って祈りを捧げる。
- ・ いま生きていることに感謝をしながら生活する。
- ・ 千羽鶴を折ったり被爆した人のためにできることは全力でやろうと思った。
- ・ 原爆のことを忘れず、次の世代に受け継ぐこと。
- ・ 戦争についてもっと知る。
- ・ なにかに困っているひとや体が不自由な人を見つけたら手伝ったり、それらの人たちを非難せず平等に接する。
- ・ 戦争を忘れてはならない。受け継ぐ。
- ・ 歴史を知る。
- ・ 1つ1つのことにありがたさを持って過ごす。
- ・ 自分自身も原爆の危険さを覚えておくこと。
- ・ 世界の差別問題を知ること。
- ・ 生命を大事にする。
- ・ 平和を願うこと。
- ・ 広島が平和になってきているのは、大きな傷を負った人たちが諦めずに最後まで戦った人たちのおかげを忘れずに人に感謝の気持ちも込めて人とこれからも接していきたいと思いました。
- ・ いつ何が起こるか分からないので、広島の前爆のことを忘れたくないし、いつもの平和な暮らしに感謝しながら生活していきたい。
- ・ もっと世界と日本の関係を学んでみようと思った。
- ・ ある命の背景に潜む人それぞれの思いを、寄り添って理解すること。
- ・ 広島の前爆のことを忘れてしまわないように、なかったことにしないように伝えていきたいとおもいました。
- ・ 今の自分の環境や生きていることに感謝をし、この前爆でなくなった人達の気持ちを常に考えて8月6日に起きたことを絶対に忘れずに過ごします。
- ・ ご飯などを食べるときにいつも以上に感謝して食べていきたいです。
- ・ 平和に関することを【原子爆弾・核兵器を断絶する】ようなポスターなどを作る必要があると思った。
- ・ 突然のことで家族などに全然話せないままだったので、これからは色々な人といっぱいコミュニケーションをとっていきたいです。
- ・ 私たちより小さい子供にこんな事があつたと伝えたい。
- ・ 人が悩んでいたら助けたいです。
- ・ 昔に起きたことだからと言ってどうでもいいという気持ちになるのではなく、しっかりとこの日のことを忘れないようにすること。幼い子どもたちにはまだわからないと思うので自分たちが教えてあげられる立場になれるようになったほうが良いと思った。

- ・社会などで戦争や原爆について学ぶ機会があれば積極的に学んでいきたい。8月になるとよく戦争についてのテレビ特集があるため、なるべく見るようにしていきたい。
- ・風化させない。
- ・平和維持活動などに興味を持ち、参加すること。
- ・これから二度と戦争を起こさないためにたくさんの人に戦争の苦しさを教えていくことが大切だと思いました。
- ・戦争が二度と起こらないように、世界の人々が幸せになれるような世界を作っていきたいし、呼びかけもしたい。そして、戦争の辛さや、苦しみを自分のおばあちゃんに聞いて、どんなに辛くて、苦しいものなのかをより実感したい。
- ・少しでも平和になるように、絶対に人が苦しむようなことをしたり、環境にも良くないことはしないことを取り組みたいです。
- ・原水爆の怖さを知って伝えていくこと。
- ・健康に生きていられることに感謝して、生きていこうと思った。
- ・小さい子はまだ原爆があったことは知らない。そして爆弾や戦争という言葉を使うのが好きだと思う。それは言うてしまうのは悪いことではないと思う。けれども使い方を間違えてしまうと相手を悲しませる言葉になったり傷つける言葉になることを忘れずにいたい。
- ・戦争の記憶を消さないこと。
- ・非核三原則を守る。
- ・色んな人と協力しあいながら生きていこうと思った。
- ・広島や長崎で起こったことを忘れないように覚えていくこと。
- ・見たり、聞いたりするだけではなく当事者のきもちになって考えること。
- ・原爆の語り部も高齢化してこれからの世代に語る人がいなくないように自分たちも語りたい。
- ・戦争はみんなを悲しませるということがわかった。広島にはいけなくても祈りを捧げたいと思う。
- ・8月6日に祈りを捧げる。
- ・私は喧嘩も戦争のうちだと考えています。喧嘩（戦争）を起こさないようにする方法は、誰にでもできることだと思うので、喧嘩をまず少なくしていきたいです。
- ・戦争や核兵器使うことで、幸せになる人は一人もいません。だからこそ、二度と戦争を繰り返さないのとや戦争で起こった悲劇を忘れずに生きていきたいと思った。
- ・日常を大切にする。

■感想

- ・家族が突然いなくなると思うと、悲しい気持ちになった。
- ・二度とこのような出来事が怒らないようにこれからの自分たちがこの世の中を変えていくことが大切だと思いました。
- ・DVDを見ていて、とても悲しくなりました。たくさんの人、同じ年齢くらいの人や、もっと小さい子どももひどい被害を受けたことを知って、改めて原爆はあってはならないものだと思いました。
- ・戦争はもう2度としてはいけない。広島そして長崎の人のように原子爆弾を落とされ、生きるために生活している一般人の人を巻き込むのはとても悲しいことだ。動画の中学生が言っていたように、あの戦争を昔話で終わらせてはいけない。私達はその思いを引き継ぎ、絶対に戦争をしてはいけない。と伝えることが必要だ。
- ・あの、ビデオをみて昔の人達は、すごく辛い中で生きて母親は息子が亡くなっていたりするひが多くいて、親はすごく悲しく、戦争が無くなって欲しいと思っていたと、思いました。
- ・そのつらさは広島の人にしか分からないことだけど、真剣に聞くことができました。
- ・私は、ちゃんと家族もいるし幸せな暮らしを送っているけど昔は母を失ったり我が子を失ったりとそれが普通のことというのがとても心を痛めました。今は戦争のことを分からない、知らない子が多いと思うけど、私はそれを昔話にしないでこれから先生きて行く人に伝えていきたいです。今の医療技術で後遺症が残らないというのがあるなら私は手助けをしたいです。
- ・すごく衝撃的な映像ばかりですべてが印象に残りました。広島原爆は、社会の授業で習っていて改めて動画を見て衝撃を受けました。もう、二度と怒らないようにしたいです。
- ・現在私たちが平和に暮らせているのはとても幸福で尊いことだとわかった。
- ・あんなことが実際にあったという事がいまだに信じられないくらい衝撃的だった。
- ・今普通に生活できているけどいつ何が起こるかわからないから今自分が普通の生活ができているのは当たり前ではないんだということを自覚して常に感謝の気持ちを持って生活していかなければならないと思った。
- ・今が、すごくいい環境にあるんだなと思った。
- ・今回の映像を見て、原爆の被害あった人々は私達が思っている以上に辛く大変な思いをしてきてるんだろうなと思いました。戦争なんてもうあってはならないんだと改めて強く思いました。
- ・最後の歌を歌っていた学生たちはまだあまり時間が立っていなかったからあんなにも泣いたり核をやめようと必死に訴えられたが、今のように時間が立ちすぎたりすると核の怖さは知っているが本気でやめようと訴えたりする人が少な

くなるんだなと思った 記憶は後世の人達の知識となるけど記憶は風化するんだなと思ったりした。

- ・教科書では、分からなかった事がわかった 自分の親を探していた子共などを見て当たり前が日常じゃ無くなることのある事を改めて感じたので今生きていることに感謝し生きていきたい。
- ・原爆は今を生きる私達には想像もつかないような残酷であまりにも非情な兵器であり、この世界に絶対に必要のないものだと思った。にもかかわらず、原爆について関心がなかったり、共感を持たないことはすごく残酷で間違っていることだと思う。
- ・今、自分がどれだけ安全で恵まれているのか知ることができたし、この生活が当たり前でないことを再確認することができた。
- ・必死に生きようとしている人達の姿に感動しました。
- ・たくさんの方が協力していた。
- ・正直原爆の怖さや何が起きたのか詳しく知らなかったので、平和学習を通して原爆の怖さなどを未来にも伝え、忘れることのないようになったらいいなと思いました。
- ・今の現代では考えることのできない事が起きていて、私達はそれに目を背けてはいけないと思った。広島で起きたことを自分たちが知りそして次の世代に語り継いでいかなければならないと思った。
- ・沢山の人が亡くなり悲しんでいる人たちが大勢いた。その亡くなった人たちのためにも長く生きていきたいと思った。
- ・大切な人や家族を失ってつらい思いをしたけど前を向いて生きる姿に感動した。
- ・人体を徐々に原爆が蝕む様子を見て、原爆の恐ろしさをとても感じた。
- ・沢山の怪我人や、苦しんでいる人などの姿を見て、私もとても苦しくなりました。残酷でいつ平和が訪れるのだろうとずっと思いながら見てました。あの子供の真面目な目が頭から離れません。大切な方を亡くした方の涙を見たら、こっちも涙が溢れました。消えない傷が残っていた姿を見て、痛々しいと思いました。1981年から少しずつ戻って来ているなと思いました。他県だろうがこのことは忘れてはならないものだと思います。
- ・改めて映像を見ると、沢山の人が犠牲者になって街も破壊してたのにここまで街を取り戻せたことがすごいと思いました。被害にあった人が治療してるシーンをみて、全身焼かれた人やガラスで目を失った人、白血病にかかった人、それでも最後まで諦めずに生きようとしているところに、心を打たれました。
- ・映像がこんなにたくさん残っていてすごいと思いました。この映像のおかげで今、原爆の酷さがわかるのだと思いました。
- ・目と耳で戦争の被害を感じただけでも辛いですが、被爆者は実際に体全体で感じているのが、私達には想像できないほど、痛くて辛いのだろうと思いました。

- ・今も昔もこれからも平和を願う気持ちは変わらないと思います。原爆を経験していない私達には同情することしかできないかもしれないけど、経験した人たちや広島の人たちには同情されることが嫌なことかもしれないと思ったときに、じゃあ自分たちにはなにができるのかと考えさせられました。
- ・前から原爆のことは勉強していたんですけど、こんなに詳しく動画を見たのは初めてだったので驚き、怖さ、悲しさがすごく伝わってきました。広島に原爆が落ちたことによって想像できないくらいつらい思いをした人がいると思うとすごく悲しくなりました。原爆に関わったわけではないけど、決して忘れてはいけないことだと思いました。これからもこのことを忘れずに、そして今平和に生きられていることに感謝して過ごしていきたいと思いました。
- ・両親などがなくなり一人で生活していかないといけない子供や家族を失い泣いている母親がいて自分だったら絶対に生きてはいられない環境で必死に生きようとしていてすごいと思いました。
- ・今回のこのDVDもみて、広島だけではなく、長崎の原子爆弾投下のことも忘れてはいけないと思った。それに、自分は自分ひとりの命を大事にして周りの人の命も大事にしていかないといけないと感じた 近年、いじめなどで自殺が増えているような感じがする。さらにSNSの普及などでそのことが火に油を注いだように増えている。しかし、一回しかない人生を自分で断っていいのか疑問が浮かぶ。この動画を見て、自分はこの被爆した人達のことを感じながら平和はなれたら当たり前のように思ってしまうけれど平和はそれで幸福なんだと考えて強くたくましく生きていこうと思った。
- ・私は治療を受けているところがとても印象に残っており、見ていてとても痛々しいと感じました。火傷の痕がひどくて、片目を失った人がいることを知り、とても悲しく思いました。他にも、父の遺体に「暑いから」といってうちわで扇ぐ子供の場面を見たときは悲しくなりました。この出来事があり、こんなことがもう起こらないことを祈りながら、今でも苦しんでいる人がいることを忘れず過ごしていきたいと思いました。
- ・今日の「ヒロシマ・母たちの祈り」を視聴してみて、自分たちが生まれてないときにこんなに多くの命が戦争によってなくなってしまうということを改めてしることができました。今の自分と同じ年の子もこの戦争により命を落としてしまっている人がいると考えるととても悲しい気持ちになりました。一人一人が曖昧な気持ちで過ごすのではなくその日のことを忘れないことが大切だと思いました。
- ・私は小学6年のときに市役所でやっていた原爆の写真展のようなものに行ったことがあるのですがその時見た写真を思い出しました。その見た写真の中には私達より小さい子供の皮膚が腕から垂れているものもありました。原爆を経験していませんがもし実際に経験したらとてつもない恐怖になるのかな。と思いました。

- ・生き残った人の気持ちがどのような気持ちか理解するのは、難しいけど。被爆の痛々しさや二回目の爆破があって広島の人たちは、すごく苦しい思いをしたと感じました。毎日千羽鶴を折り続けた女の子は、自分が病気ながらも平和を祈り続けたと思いました。被爆した人々が悲しみを平和への祈りに変えたから今の広島があると思いました。
- ・自分の最愛の人が亡くなってく中で悲しみが憎しみに変わるのではなく、平和への祈りに変わるのがすごいことだなと思いました。映像の中で自分より小さな男の子が妹をおんぶしているところを見て、とても悲しく感じてもこの男の子はすごいなと感じました。即死した人もかわいそうだと思いますが大きなやけどを負って痛い思いをずっとしている人のことを考えると胸が痛くなりました。
- ・社会の時間で広島について勉強することはあったんですが、ここまで深くはなかったのが初めて知ることが多かったです。原爆の後、亡くなった子を探す親、足・手・目を失った人、みていてとても辛く目をそらしてしまう部分が多くありました。だからこそ、二度と同じことを繰り返してはいけない。止めてくれた人、止めるために命を落とした人、原爆にあった人のためにも。この先の未来、何が起こるかは誰も予想できません。しかし、今私達にできる事は、次の代次の代へと受け継ぐことだと思います。
- ・私も小さいときに母を亡くしていますが、私よりも小さい子が親を亡くしてしまうということがどれだけ残酷なことなんだろうと思いました。原爆でなくなったすべてのひとが、報われてほしいと思いました。
- ・罪のない人たちが亡くなるようなことがないようにしてほしい。
- ・本当に残酷だった。目をそむけたくなる場面もあった。この歴史は忘れてはいけないなと思った。
- ・こういうひどいことが日本であったことを忘れないようにしたいと思いました。今の平和な世界は、こんな事があったからこそなので、普段から平和なことに感謝して、生活していきたい。
- ・自分が普段嘆いていたことがちっぽけに思えた。何度見て、聞いても悲しくて痛々しい気持ちになり目を背けたくなるけど、こういったことと向き合う時間がとても大事だということに改めて感じた。

3. アンケート紹介

『令和元年度 平和大使報告会』DVD を視聴して

燕中学校・小池中学校の生徒が令和元年度の平和大使報告会DVD を視聴し、感想等の自由記述を含む平和学習活動についてのアンケートに回答しました。生徒たちの回答を紹介します。

■ 学習を通じて一番印象に残っているものは？また、その理由は？

- ・ 広島原爆はすごく危険だと言うこと。ものすごい範囲に広がったから。
- ・ 原子爆弾の話。原子爆弾が落ちて被害にあった人などの話をしていたから。
- ・ たくさんの方が長きにわたって原爆に苦しめられていたこと。衝撃的だったから。
- ・ 川に死体があること。爆弾の恐ろしさが改めてわかったから。
- ・ 原爆の恐ろしさ。今は平和だけどこの時代は多くの人や街がなくなったと考えると恐ろしいと思ったから。
- ・ 日常が平和ってということがわかった。戦争はとても怖いから。
- ・ 体が灰になる。灰になるほど危険なのが降ってきていたから。
- ・ 被爆した方の詩。最後の「人がおばけになる」から一瞬で何もかも奪われてしまうと改めて感じたから。
- ・ 汚れた雨。今の雨とは違って昔は大変だったことがわかりました。
- ・ 被爆で黒く汚れた服や被爆者の映像。私は戦争の話や被爆者などの話を聞いたことがありません。このような映像でどのくらい恐ろしかったなどが映像を見ただけでわかるから。
- ・ 戦争の悲しさ。沢山の人が一瞬で死んでしまったから
- ・ 女の子の手紙。今の自分よりも小さい子があんな怖いことを経験したんだと思うと切ない気持ちになったから。
- ・ 若い世代に伝えていかなければならないこと。戦争のことは忘れちゃいけないから。
- ・ 平和を受け継ぐことの大切さ。平和を受け継ぐのは大事だと思ったから。
- ・ 原爆の怖さ。原爆ドームの写真や、原爆で被害にあった人の感想の「ひとがおばけみたい」という感想を聞いて、改めて原爆の怖さを感じました。
- ・ 原子爆弾を体験した人は青空を見ると原子爆弾を思い出してしまうこと。青空を見るだけで思い出してしまうほど怖いことがわかったから。
- ・ 朝の朝礼中に原爆が落とされたという当事者の人の話。本当に一瞬で平和な生活が崩れるのだなと思ったから。
- ・ 8歳の少女の原子爆弾を表した手記。その筆致から、8歳の少女の語彙力では書き表せないほどの原子爆弾の恐ろしさ、絶望を感じたから。
- ・ 原爆が落とされた現実を伝えていくことが大切であること。被災者の高齢化が進んでおり、自分達が学習をして語り繋いで行きたいと思ったから。
- ・ 平和な世界がいちばん大事なんだということです。皆にとって平和は必要としているから。

■ 平和学習を通じて学んだことで、今後あなたの身の周りで取り組んでみようと思うことは？

- ・平和であることに感謝する。
- ・もう少し詳しく知っている人に聞いてみたり自分で調べてみたりする。
- ・より周りの人の意見に耳を傾け、互いに尊重しあうこと。
- ・広島のことをよく知りたい。
- ・僕が、これからできることは今までの日常を続けつつ自分に最善を尽くせるように頑張りたいです。
- ・こういうことがあったということを忘れずに過ごしていきたい。
- ・平和のためになる事を積極的に協力する。
- ・身の回りのおじいちゃんなどから話を聞くこと。
- ・戦争のことを知る。
- ・この平和な一日一日を大切に、生きていこうと思った。
- ・困っている人がいれば協力し合おうと思った。
- ・鶴を織る。
- ・ボランティア活動などに参加して人のためになることしようと思う。
- ・何にでも挑戦するという取り組みをしてみます。
- ・平和や原子爆弾の怖さを知る。

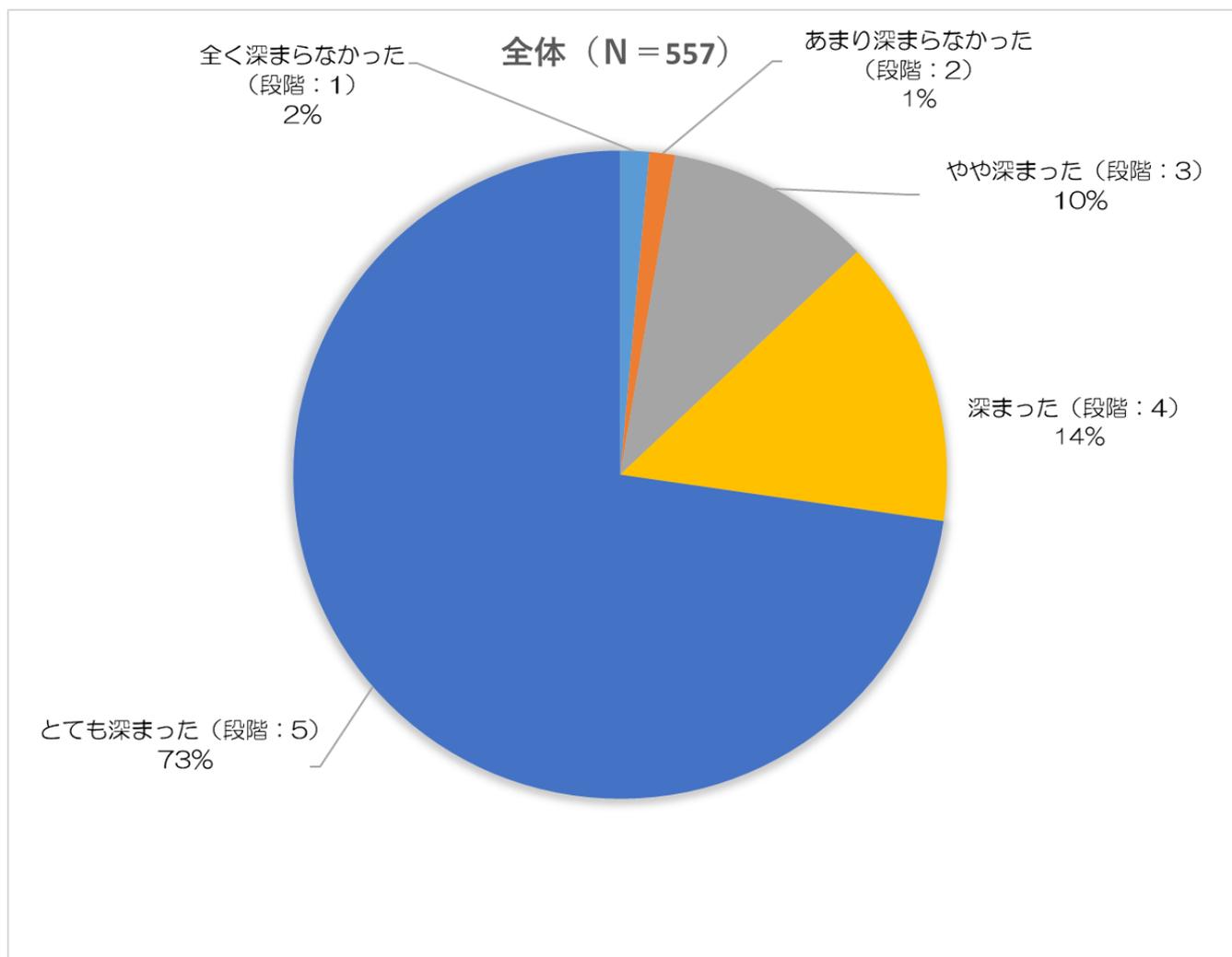
■ 感想

- ・原爆の恐ろしさが分かった。だからこんなことは一生繰り返したくないとおもった。
- ・昔のこういった出来事があったって今私は平和に生きているということを実感しました。
- ・初めてスピーチで原爆の話を聞きましたがやはり原爆はものすごく悲痛なものであり残酷なものでした。自分は原爆のことをあまり知らなかったのですがこれを機に少し原爆のことについて触れていきたいです。
- ・戦争の辛さ、平和の大切さがよく分かった。
- ・昔はこういう悲しいことがあったということを忘れずにしたいと思ったし、今が平和であることに感謝しようと思った。
- ・自分も困っているはずなのに人に手を差し伸べる事ができるのはすごいと思った。
- ・当時の人々へ尊敬の念をいだきながら、今、皆が平和に暮らせていることに感謝すべきと思った。
- ・戦争は日本で起きただけではないから、世界全体で平和を考える必要である。
- ・平和とは、皆にとって必要であり、平和な世界にするには身近ないけないこと（いじめなど）をなくすことが大事とわかりました。

■ 平和学習活動を通じて、平和について理解が深まったかの調査結果です。

「全く深まらなかった」を1、「とても深まった」を5として評価しています。

	全く 深まらなかった (段階：1)	あまり 深まらなかった (段階：2)	やや 深まった (段階：3)	深まった (段階：4)	とても深まった (段階：5)
全体 (n=557)	8名	7名	57名	80名	405名



■ アンケート結果から

平和についての理解が、「やや深まった」、「深まった」、「とても深まった」と評価した生徒は557名中542名で、全体の97.30%でした。

生徒は感想の中で、原爆により身体・心に傷を負った人への悲しみや痛ましさを感じ、また、戦争当時と現在の環境を比較し、周囲に感謝する気持ちや、より良い未来をつくるために自分ができていることを考えて行動する気持ちを記載していました。

命の尊厳や、平和の尊さについて理解を深めた燕の子どもたちが平和な社会の実現に向けて力強い一歩を踏み出すことを期待しています。



被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは 1973(昭和 48)年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。

被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 30 年 4 月 植樹



令和 3 年度
平和学習 事業報告書

燕市教育委員会 学校教育課